

Cellular Line <<<

# Interphone F4

価格 ● 3万2800円(単体)、6万2800円(ペア)

問 トーヨー産業  
☎ 03-6303-0030

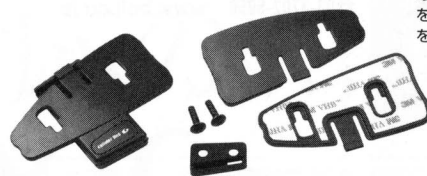
www.bike.ne.jp/shopping/large/bluetooth/bluetooth001.html

## Impression <<<

カタログには、相手と500m離れても通話できるとあるけど、本当にそんなに離れて大丈夫なの？と思うのは当たり前。だって直線がしばらく続いているも、ほかに走っている車も少ないような道でなければ、絶対に見失う距離でしょ。2台で走っていて、そんなに離れることは、はぐれる寸前はかなり不安な位置関係。この距離での通信能力があればそれだけでも心強い。そこで、試してみると…なんと、本当にそれくらい離れても、ハッキリと会話ができた。しかも、間にトラックや車が何台か入っても大丈夫。右左折などして高い建物で完全に遮られてしまうとさすがに厳しいけれど、ビルなどの大きな障害物で会話が難しくなるのはテストしたほかの機種も同じ。

とにかくF4の通話能力はスゴい。そう、この機種はお利口で、速度が上がれば自動でボリュームが上がり、ノイズキャンセラーのレベルも上がる。分かりやすくてよいけれど、逆に停車中や低速走行中だと、相手のエンジン音までしっかり聞こえてくる。

ただちょっと弱点も。左耳用スピーカ



ーから直接マイクのアームが出ているから、ジェット用だとマイク位置の調整が若干やりにくい。感度がよいから、少しくらいずれていても会話に支障はないけど、うまく、しっかり収めようとするとな難易度は高め。ヘルメットの内装とよく相談したほうがいいのかも。

音質は軽めで音楽を楽しむには物足りなく感じるかもしれないけれど、相手との通話やナビの音声案内を聞くには必要十分。うっかり聞き逃して通り過ぎてしまう…なんて心配もなさそう。F4は音質明瞭で通話可能距離が長いわけで、まだ走ることに慣れていない初心者とのツーリングや、何台も一緒に走るマストツーリングのときに先頭と最後尾の人で使う、なんて場面でも活躍しそう。

◀BMWジャパン純正品に指定されたほど定評のある前作の「セラーライン・インターフォン」。その最新上級モデルが「F4」である。2台の機能を比較すると、モノラルステレオ、通話距離150→500m、連続通話時間7→10時間と、使い勝手と趣味性をかなり高めてきた。さらに前作の防水性能を上回るスペックと、風切り音をカットするDSPフィルター（デジタル信号処理）のパフォーマンス向上、マルチポイント接続機能を使った2台の携帯電話の接続が可能になるなど、お買い得とも言える価格設定だ。ヘルメットへの取り付けは、マジックテープでブラケットを張る、もしくはクランプ付きのブラケットをはめこむ、のいずれかを選択できる。

## インターコムカタログ

テストした製品以外にも、ブルートゥース対応のインターコムはある。ここでは、発売間近の製品と、充電不要の電池式インターコムを紹介しよう。

### COOL ROBO

価格：2万4990円(単体)

問 デイトナ ☎0120-60-4955  
http://daytona-mc.jp



※多くのインターコムが内蔵バッテリーで稼働するのに対し、クールロボは単4電池1本で使用できる。そのため、ツーリング先でバッテリー切れの不安が少ないのがメリットの製品。ステレオ再生が可能で、携帯電話、タンデム、オーディオなど同時に3つの機器との接続ができる。また、別売りのトランスミッターを組み合わせてBluetooth非搭載のトランスシーバーやナビ、ポータブルオーディオなどをワイヤレス送信できる。

### Bear Lizard

近日発売予定

問 KTEL  
☎03-3603-8889  
www.ktel.co.jp



◀2輪用通信機器の老舗で、各種4輪レースチームの通信システムでも圧倒的なシェアを誇る業界の老舗、KTEL。その同社から、ブルートゥース対応のインターコムが、近日登場する。製品名のベア・リザードとは、KTELの名称の由来である「くま=K」、「とがけ=T」の英語表記であり、くま=ベア、とがけ=リザードの造語。03年から独自のブルートゥースシステムの研究、開発を継続し、拡張性の高い製品に仕上がっている。特徴は、胸ポケットなどにワンタッチで取り付けられるクリップ付きで、生活防水。電源は単4アルカリ電池1本(タンデムで9時間連続使用可)。既存のKTEL製マイク・スピーカーがそのまま使えるようになっている。詳細はウェブもしくは電話で問い合わせのこと。